

平成24年度

第1回 鶴岡地域審議会
会議録（概要）

期日：平成24年5月29日（火）

場所：鶴岡市役所 議会委員会室

平成24年度 第1回鶴岡地域審議会会議録（概要）

○ 日 時 平成24年5月29日（火） 午後1時30分～

○ 場 所 鶴岡市役所 3階 議会委員会室

○ 出席委員（五十音順）

五十嵐吉右衛門、五十嵐寅吉、五十嵐松治、稲泉眞彦、今野毅、齋藤春子、佐藤正廣、
荘司正明、竹内峰子、茅野進、本間孝夫、三浦惇、山田登

○ 欠席委員（五十音順）

阿部和博、後藤輝夫、今野利克、早坂剛、早坂裕子、本間昭志

○ 市側出席職員

企画部長 秋野友樹、危機管理監(兼)防災安全課長 阿部一也、
観光物産課長 小野寺雄次、企画部次長(兼)地域振興課長 三浦総一郎、
地域振興課長補佐 武田壮一、地域振興課地域振興専門員 三浦裕美、
地域振興課主任 前田哲佳

○ 次第

1 開 会

2 あいさつ

3 報告事項

（1）平成24年度主要事業の概要について

（2）提言内容を踏まえた今後の事業の進め方について

4 そ の 他

5 閉 会

1 開 会 （午後 1 時 3 0 分） 進行：三浦裕美地域振興専門員

2 あいさつ

齋藤春子副会長

本日は皆様お忙しいところ本当にありがとうございます。会長が急遽出席できないとのことで会長の職務を代理することとなりました。よろしく願い申し上げます。

平成 22 年から始まった地域審議会の任期もあと残すところ僅かとなりました。これまで協議テーマを設定し、地域の活性化に向けた具体的な取組みについて、論議を重ね、委員の皆様からの真剣な、また地域にあったご意見、ご提言を頂き、鶴岡地域審議会提言書としてまとめ今年の 12 月に早坂会長より市長へ提出をいたしました。

本日、配布しております次第に「提言内容を踏まえた今後の事業の進め方又は対応等」とございますが、私達の提言した内容が、今後どのように市のまちづくりの具体的な施策として取組みが進められていくのか、しっかり見守っていかねばと思います。

委員の皆様方におかれましても、今後、鶴岡地域のまちづくりにお力添えをいただきますとともに、鶴岡市の更なる発展のためにも、本日は、皆様の在任内の最終の審議会でございますが、どうぞ、忌憚のないご意見を賜りますようお願い申し上げます。なお、最後には皆さんから一言ずつ感想など述べていただきたいと思っておりますので、よろしく願いいたします。

3 報 告（議長：齋藤春子副会長）

（1）平成 24 年度主要事業の概要について（説明：三浦総一郎地域振興課長）

（2）提言内容を踏まえた今後の事業の進め方について（説明：三浦裕美地域振興専門員）

○ 齋藤春子副会長 全体の予算のお話でしたが、これを中心に進めたいと思います。予算の関係で大変新しい試みなどもありました。ご質問、ご意見ございましたらお願いいたします。

○ 今野毅委員 ユネスコの食文化創造都市に関して、榎本市長さんはこの辺に対して、かなり力を入れていると聞いていますが、先ほどユネスコの中でいろいろなことがあったようなお話がありましたが、予定通りに進んでいるのかどうかお聞きしたいと思っております。

○ 秋野友樹企画部長 ユネスコの関係でございますが、当初は昨年度中に申請し年度内の認定を受けたいということで進めておりましたが、ユネスコで財源的なところがストップしている状況にあり、事業全般の見直しをしております。その中で対象になっております。現段階ですが、モンテリオールで各都市の会議がございまして、その対応を検討しております。現在の情報といたしましては、加盟都市に一定の負担金なりを求めてその事業を継続していくようなことが、有力なのではないかとございまして、昨年度、韓国で行われた会議に市長が出向きプレゼンテーションをしておりますので、日本の他の加盟都市からの情報を待ちながら、状況にあわせて進めてまいりたいと思っております。おそらく来月か再来月辺りまでには、一定の方向が出てくるのではないかと思います。

○ **今野毅委員** 今は傍観しているしかないということですね。それからもう一点予算に関して、森林文化創造都市のところで、ペレットストーブあるいはペレットの原料となるスギ間伐材の運搬経費への助成とありましたが、ペレットストーブの普及の推進、いわばペレットストーブが使われる場合には、当然、間伐材のペレットを使わなければならないので、間伐や整備と連動した中での予算措置ということでしょうか。

○ **秋野友樹企画部長** ペレットについては、従前より進めていきたいと思っておりますが、それを普及させるという面では、農業関係のハウスなどが先行して実証実験などを行っているというところでございます。

○ **今野毅委員** 農協の組合長という私の立場から言わせていただくと、3、4年前位からこのペレットを作っている業者もいます。石油や灯油との関連ですから、コスト的なことも勿論あります。これを助成する予算措置ということは、わかりやすいえば消費の拡大になりますから、きちんとしたデータの解析がなければと思います。農業分野だけでなく資源エネルギーのことを含めれば、鶴岡市としては代替エネルギーのことも含めてやるという連動性、関連性があるのではないかと思います。その辺の整合性がないと場当たりにペレットはペレット、スギの間伐材利用は利用ということだけで、悪くはありませんが、少し理解の得られない予算措置だったのではないかと思います。

○ **秋野友樹企画部長** 全体的な再生エネルギーなど横の連絡をと言うことですが、今年度にエネルギービジョンを策定する予定であります。その中でペレットあるいは森林バイオマス関係をどのように進めていくか。また、他の再生エネルギーとの兼ね合いを含め、鶴岡にあったエネルギーとはどのようなものがあるのかなども踏まえて検討していきたいと思っております。

○ **今野毅委員** 一步踏み込んで言えば、代替エネルギーは先ほど防災でも話がありましたが、去年の大震災の時に一番言われたのは、電気、ガス、水道などのインフラが止まったことから、固形燃料も含め携帯のガスコンロが非常に売れたとのこと。そこにペレットや代替エネルギー、小規模水力発電などを含めて、鶴岡はアメニティが豊かで、その資源を活かしたものが予算の中にあるべきだと思います。そういう訴え方をしないと防災等を含めてですが、スポット的な予算や予算措置になり、面白みのない604億円なのかと思います。

○ **秋野友樹企画部長** その辺も含めエネルギービジョンで検討してまいりたいと思っております。

○ **齋藤春子副会長** ほかに予算で何かございましたらお願いいたします。資料2では、私達の審議会の提言内容を踏まえた今後の事業内容の進め方について、大変分かりやすく書いてありますが、ご意見などありましたらお願いいたします。

○ **山田登委員** 昨年の大震災を受けて町内会の役員会などでも話題になりますが、実際に機能する防災訓練のあり方はどうあればいいのかということで、町内の人口の動きが24時間でどのように変化するのか。私たちの桜新町の例ですと、全くの住宅街ということで、普

通日の日中であれば、お父さんお母さんが出勤し、学校に入っている子ども達は学校に行きますので、町内に残っている人は高齢者か小さい子どものいる家庭という状況になっているのではないかと。日中災害が発生した時に、誰が指導的な立場に立って避難や指示をするのが話題になっています。そのようなことから、いつでもスムーズに避難できるような体制づくりをしていく必要があるのではないかと。あらかじめこの方は防災担当者ということではなく、時間の変化、人の動き、状態によって役割が分担できるような形にしていきたいものだとということで今話題にしております。

それから、火災などがあった時に消防署や消防団が来るまで、様子を見ている、逃げるといことは、身近にいるととても出来ないし、何とかしなければならないという気持ちになった時に、安全に初期消火の活動が出来るような研修を受けておきたい。先ほど消防団協力員という言葉がありましたが、勤務に差し支えるため消防団員にはなれないが、消防団協力員として休みの日や勤務に差し支えない時は、消防団の人達と一緒に勉強する機会を持ちたいという若いお父さん方が若干名いるようです。そういう希望の方もいるので、消防団の仲間に入れて研修の機会を与えるということも、今後考えていく必要があるのではないかと。深夜の火災であれば、そのような方も地域のために活動できるのではないかと。潜在的に活動できる能力をいつかの機会のために、研修によって勉強することが出来ればということも話題になっております。

○ 齋藤春子副会長 リーダーの養成はしたいという計画でした。

○ 阿部一也危機管理監 ご意見の内容が多岐ですので、現状等を述べさせていただきます。第1点目について資料2にございますが、自主防災、消防団、消防団活動協力員制度は消防団員のOBの方々を対象にした制度でございます。これは消防本部の所管業務ですので、私も詳細はわかりませんが、わかる範囲で申し上げます。消防団というのは準公務員ですので消防活動に対して保証がある訳ですが、消防団活動協力員も各町内会等で組織している自主防災組織も、自主的な組織となっております。次に自主防災組織ですが、このリーダーの方々より、これまでも平成7年から延べ600人以上の方々から講習をいただいております。7から8コマを約4ヶ月間かけて研修いただいております。この提言にございますとおり、高専の先生方のご協力をいただいたり、消防本部で初期消火訓練やAEDの訓練を皆さんから行っていただいております。23年度からは1回受けたけれども忘れてしまわないためにも、もう一度磨きをかけ直してもらおうという意味で、ブラッシュアップ講習会を企画させていただいております。こちら昨年30名ほど参加いただいております。このような講習会、研修を通して出来るだけ市民の方と一緒に防災力を高めていこうと考えております。また、各町内会等で行う防災訓練につきましても、防災担当専門の職員がおりますので、例えば計画段階からどのような訓練をしていけばいいか、もっと実践的な研修が出来ないかなど一緒に参加させていただきながら実施させていただいております。

それから、旧鶴岡ですが21コミセン単位で、持ち回りで総合防災訓練を実施させていただいております。昨年は湯田川、その前は大泉地区でさせていただいております。大泉地区ではこの訓練を契機に、ここには足の悪い方がいらっしゃる、ここにはこういう危険なものがあるなどのそれぞれの集落で防災マップを作っていただいておりますし、湯田川地区でも去年実施した成果としてマップを作ろうという動きが出てきております。このようにくつ

かの方法を通して、また、山田委員からご提言いただいたものを参考にいたしまして、防災力向上に努めていきたいと思っております。

○ 齋藤春子副会長 自主防災について鶴岡には21学区全部あります。21学区または町内会ごとに防災訓練は毎年実施している状況かお聞きします。

○ 阿部一也危機管理監 自主防災の結成率については本市の場合98.9%となっております。なお、自主防災組織はほとんどの場合町内会と表裏一体と申しますか、町内会の活動の一つとしての活動となるものと思っておりますが、齋藤委員もご存知の通り三瀬も含めて、それぞれの地域にあわせた訓練をやっていただいております。特に3.11を受けまして毎年7月の第一金曜日に実施しております津波情報伝達訓練には、海岸線の小中学校や福祉施設を含めて参加いただくよう呼びかけをさせていただき、避難訓練を実施していただいております。

○ 齋藤春子副会長 モデルの時だけでなく、モデル後も毎年実施していますか。

○ 阿部一也危機管理監 それぞれの地域、コミセン単位、町内会単位もありますが、相当やっていただいております。春のシーズンそして秋のシーズンということで、私たちにも参加の声がかかりますので、手分けして参加させていただいております。

○ 稲泉真彦委員 防災訓練に関連して、3ページの今後の進め方で「また」という後段があります。海岸地域では毎年7月第一金曜日に津波の情報伝達訓練にあわせ地域や保育園、小中学校、福祉などの各施設においてとあります。海岸地域をイメージしているのかもしれませんが、前にも発言しましたが、高等学校、国立高専、山形大学、または私立高校・県立高校には、大変有力な若者がたくさんいます。いざ災害が発生してもそこを離れることが出来ない状況がありますが、もちろん学校の体制として、普段から訓練を重ねておけば、特に大きな地震等の場合避難場所になりうる重要な拠点だし、構造的にも安全が図られ耐震化等も進んでいる施設なので、こういうものに対しても海岸地に関わらず市内全部に呼び掛けているのではないかと。高校に長年勤めておりましたが、なんとなく市が県立の学校にお願いするのは遠慮をしておられるのかと思います。学校の立場から言うと、あらゆる面でもっと地域と触れ合いたいというのがあります。地域に奉仕するというイメージを子ども達は強く持っていますので、そのためには高等学校で自分たちの安全を図る防災訓練だけでなく、こういうものも積極的に、遠慮なく連携して一緒にやりませんかと求めているのではないかと。

また、多くの市内の学校は避難場所に指定されているはずですが。避難場所に指定されていればこそ、活用できるものもあるし、例えば水の問題で言えば、ほとんどの学校は屋上にタンクを上げていますので、かなり大量の水を持っている。地下に大きなタンクを持っているので、電気がくれば相当量の飲み水が確保される。そういうことをきちんと計画に入れて市もやったほうがいいのではないかと。また、学校の側からもそういう相談を受ければ、少しずつそういう方向に動いていくのではないかと。

○ 阿部一也危機管理監 貴重なご提言ありがとうございます。委員のおっしゃるとおり、

高校や大学では、それぞれの学校単位で防災訓練をしていますので、なかなか声をかけられないところがございます。海岸地区だけということが委員からございましたが、まず第一歩として7月の第一金曜日に実施する津波の情報伝達訓練に併せ、それぞれの小中学校、加茂水産高校と一緒に訓練をやっていただけませんかという呼びかけを去年からしております。海岸の例を先導的な例として、今後広めていければと考えております。今年は海岸地区のすべての小中学校で訓練に参加していただきたいと思っております。

○ **三浦惇委員** 提言や対応に書かれていますが、間違いなく鶴岡市街地においても、少子高齢化がかなり速いスピードで進んでいるのが実態ではないかと思っております。とりわけ地域、行政、町内会と連携が益々強まり、地域のことは出来るだけ地域でという方向に行くと思うのですが、山田委員もおっしゃっていましたが、今の社会情勢や社会構成は多様化されてきております。例えば極端な言い方ですが、町内会で職業について書けと言われても、あまり書かないというのが実情です。それだけ生活基盤が緩やかといいますか、そういう方々も増えてきています。その中で今申し上げた点をどうすればいいのかとなりますが、若い人をとってみれば、町内会、コミセン活動においても、人材育成というのが最大の課題になっています。生涯教育、生涯学習、生涯スポーツなどからいろいろ取り込む中で対応していかなければと思っております。非常に複雑化された今日の時代において、特に高齢化については提言にもありましたとおり、福祉、防災関係は一連の密接な連携をとっていかないと、これからの時代を乗り越えることが非常に難しく、地域だけでは大変な時代に入ってくるのではないかと。そこでひとつお願いですが、役所の中で言う縦割りという言葉はあまり好きではないのですが、そういうのが多々ありますので、これからのコミセン、町内会、地域全体の活動をどうするかという起点に立った場合、行政としての対応や指導をより強めていくとか、すべての人々が大変な生活状況の中で、それをどうするかということが大きな課題になっていますから、それを乗り越えるためにも連携を密にしながらリーダーシップをより強めていただくということが、大切な状況であると思っておりますので、併せてご検討いただければと思います。

○ **本間孝夫委員** 2年間にわたっての地域審議会で、皆さんの意見を聞く機会がありました。まとめの資料は非常にわかりやすく、我々が2年間議論してきた内容がまとめてられているものになっていると思います。2年間いろいろ話し合いで出された内容は、最終的に鶴岡に住んでいて良かったと思えるまちづくりが大前提だと思います。それを支えるのが高齢化の問題、福祉の問題、買物難民などいろいろありますが、要するに高齢者対応の内容がどうあるべきかというのがいろいろ提案されています。それから、それを支えるための若い人の意見を吸い上げる機会をどうつくるかというのが、審議会の中でも議論がありました。地域に大学、高専もあり、そういう若い人達の意見を吸い上げて、自分たちの意見がとおるようなまちづくりをしていくことが、ゆくゆくは高齢化対応に繋がると思います。まとめのなかに、今後の進め方または対応について書かれていますが、冒頭説明にあった予算とどう関連できるのかということが少しわかりませんでした。また、表現の仕方が「検討します」という内容で終わっているものと、具体的に24年度の予算の中に取り入れられたような表現の仕方と二つあると思うのです。齋藤副会長が申し上げられたように、我々の提言の進め方や対応という箇所がどのように進められていくのか、そこをきちんと見守っていく必要があ

ると話されていましたが、その通りだと思います。今後の進め方または対応の箇所が具体的に予算化されて、どういう進め方をされるのかわかるようになればと思います。防災の問題もそうです。例えば分かりやすいハザードマップづくりとあり、市民も参加して分かりやすいものをつくっていくようにしたいというまとめ方がしてありますが、高齢化と対応して作っていく必要があると思います。お年寄りの一人、二人暮らしの人がハザードマップを見て、こういう時はどうすればいいのかという分かりやすさが、本当に作られていくのかが問題だと思います。

鶴岡の情報発信力に関してですが、駅前の開発を含めて検討を進めていきたいとありますが、分科会の中ではマリカの跡を観光文化発信基地にした方がいいという具体的な提案もありました。これから検討されるとは思いますが、もう少し具体的に、例えばいつの時点でこれは進めていくようにしたいなどということがわかればよかったのかと思いますが、これだけきちんとまとめあげられた資料になりましたので、我々2年間意見を言った甲斐はあったのではないかと思います。

○ 齋藤春子副会長 時間の都合もありますので、順番に今までの審議会の感想または提言の中身など何でも結構ですので、2、3分ずつ山田委員からお願いします。

○ 山田登委員 地域活動を進めるにあたり、各団体との協力体制というものが非常に大事だと常々考えております。ここに推進のための座談会や研修を設けるという文言がいっぱい出ておりますので、どこで推進すればいいのか。例えば町内会でやってくださいということで、予算措置もあればやりやすくなるということもあると思いますが、学区単位でやるとなるとコミセン中心にといったことで具体的に進めることにより、体制が出来ていくのではないかと。また、実践しやすくなるのではないかと考えておりますので、その辺を強調していただければと思いました。

○ 今野毅委員 私は産業経済分科会ということで、先ほど本間委員さんがお話されたように、非常に意義のある議論を重ねたのではないかと思います。本間委員の言われたとおり、点としての論理はいいのですが、アクションプログラムの部分が足りないし、なかなかその辺が結びついていないというのは先ほど申し上げたとおりです。せっかく提言したのですから、行政ではもっと密に躍動感のあるものにしていただけたらと思います。私は農協の方ですから、こういったご意見を参考にしながら、役所がみんなやってくださいではだめだということで、私どもが出来ることは行政と一緒にいろいろ計画の中に飛びこみながらしていく。市民の交通マナーのことも含めてきちんと根底から、鶴岡市民が鶴岡のよさを活かす、導き出す、成長させるという意識をいかに育てるかというのが役所の仕事だと思いますから、是非もう少し真剣な議論を内部でやっていただきたいと思います。私ども市民も誰かがやるのではなく自分たちがやるという意識や一緒にやるという事は本当に大事だと思います。例えば、観光パンフレットやフェイスブックなどは、自分たちの会社や企業のホームページがあれば、リンクを貼るとか具体的に出来ますので、そういうアクション的なところも、今日でこの会は終わりかもしれませんが、今後もお互い双方向の中でやっていただきたいというのが私からのお願いです。私どもも精一杯頑張りたいと思いますので、今後是非実のあるもの、実を結ぶものにしていただきたいというお願いをして終わりたいと思います。

○ **五十嵐寅吉委員** 今回の件は大変良かったと思います。私たちのエリアは各小学校単位でありまして、特に地域コミュニティというのは今回の提言内容では最も重要であると思います。何といたっても各地域のリーダーが先頭に立つということが、一番の防災になりますし、いろいろな面で大切だと思います。3月末で退任しましたが、それらを後継者に伝えていきたいと思っております。是非とも今回の提言内容に沿った歩み方をしていくことを望んでいるところでございます。

○ **五十嵐吉右衛門委員** 産業経済分科会でした。非常によくまとまっていますが、予算面については、先ほど農協の組合長さんが、ペレットの予算はどうなっているのかということでお伺いしていますが、鶴岡市は森林文化都市を宣言していますので、具体的に予算の中での設備投資はどうなっているのか。代替エネルギーに関しても間伐材の加工費は予算に関連してくるし、そういった点は今後の課題だと思います。ペレットを作る会社もまだありますが、その辺はどうあるべきか。産業経済分科会では観光的な部分が強調しながらも、最終的にどこを拠点にし、要望を聞きながら集約して全国に発信するのか。それに関しても市はどのような考えでいるのかについて伺えれば大変ありがたいと思っておりました。今後の課題としては、そういう具体的な進め方について、市がどの程度まで考えているのか分からないので、その辺は期待感がありますし、私も勉強しながら今後も見ていきたいと思っておりますので、よろしくをお願いします。

○ **三浦惇委員** 昨年の5月からでしたが、町内会やコミセン活動に参加していますので勉強になりました。また、観光連盟の立場では、率直に言って行政や観光団体は、特に去年の災害以降大変な状況の中で、一生懸命頑張っていますが、提言にありますように、市民参加によるについては、鶴岡は山、川、自然、歴史、文化と非常に豊富な観光資源を持っていますので、市民の方が積極的にやっていけば、よりPRできるのではないかと思うので、いかに行政が幅広く提起しながら進めていく事ができるかが課題だと思います。そういう意味でいい提言をさせていただきました。感謝申し上げます。

○ **茅野進委員** 21地区社協の会長をしていることから、福祉の面でいろいろ発言させていただきました。提言内容が具体的になったとこと、また、私が申しましたリーダーの情報に関する研修を行う座談会は是非必要であるということが取り上げられたことに感謝申し上げます。2番目に地域コミュニティの脆弱化と言いますか、人間同士が希薄な中で活性化をどう図るかとなった場合、やはり個人情報の問題になってきます。行政の方では出しにくいでしょうし、先進地では条例の改正が踏み込みながらですね、福祉と防災の面を考えてそういう風に取り上げられてきて欲しいというのが現状でございます。もう一つ悩んでいるのが福祉と防災が別々だという発想が未だに地域にあります。例えば福祉と防災マップを作るとなった場合、これはこっちの領域、これはそっちの領域と、福祉と危機管理、自主防災の訓練においても要援護者までの考えが大事だと訴えておりましたが、福祉と防災の一体化はまだ充分なされてないのかと思います。3番目はせっかく地域活動計画と地域福祉計画を作りましたので、近隣の支えあい活動が大事だという点が若干入っていないのではないかとことを考えさせられましたが、今後活かして欲しいということをお願いしまして、大変勉強させていただきありがとうございました。

○ **竹内峰子委員** 高齢者支援として今回3項目出されていますが、昨年の震災以来、県の委託で、高齢者一人暮らしの方へのアンケート調査させていただいた結果から見ると、今回の3つの項目と同じで、地域の中での困りごととして、地震などへの対策に対しての不安が鶴岡市では22.8%、それから近所に買物をする場所がないというのが20.7%、鶴岡市におきましては一人暮らしで家が自分の家だというのが8割方だったということと、緊急時の支援者がいないというのが鶴岡で7.3%でした。その中で正月三が日を一人で過ごしたという人が山形県ではとても多く31.2%でした。今回の中で出されたのを見ますと、一人で暮らす事への不安、金銭的な面に関しては鶴岡は裕福であるといった意味で、地震や災害に対する不安や、近隣の人々に助けられてはいるが何かあるときは一人だということが出されたので、今回の3項目でも、地域の中でいろいろな団体が一緒になって情報を共有しながらしていかなければならないと思います。年々少子高齢化の中で、高齢者の孤独死が多くなり、児童養護の中でも虐待が鶴岡の中でも数値的には下がっていますがあるということからも、お年寄りも子どもも守るための施策というのが、ますます必要なのではないかと思います。

○ **高山利幸委員** 鶴岡市の資料として載る以前の予算など、いろいろ聞く事ができ大変勉強になったと思います。PTAの仕事をしていて考えるのですが、皆さんが思っている以上に子どもの数は減ってきております。1クラス約33人くらいですが、鶴岡市内のナンバースクールでも1学年3クラスあるかないか。4クラスあっても1クラスの人数が20数人ということで、将来を考えると大変なことだと思います。若年層の地域審議会的なものを開催していただけるとのことで、是非幅広く結婚している若い世代や結婚していない若い世代の方、あるいはある程度年がいても結婚していないという方などいろんな方を呼んでいただいて、どうしたらよいのかその方々から地域審議的な場所で直接意見を聞ける場を作っていただくことを期待したいと思います。ありがとうございました。

○ **稲泉真彦委員** 1点目は先ほど本間委員はじめ多くの方からありましたが、私どもが申し上げたことを、よくお聞きになって分析し、きちんとまとめてくださったという点は、私も1年間でしたが端々に感じました。ご苦労様でしたと申し上げたいと思います。

2点目は1つの例ですが、5ページの市民による観光ガイドの推進の箇所で、参考に鶴岡市周遊ドライブマップがありますが、この地図を見た時にもっといい地図が作れるのではないかとことを痛感しました。以前都市計画課の若い人が集まって観光に関する検討をした時に、同じようなことを申し上げましたが、鶴岡の主要な観光地または期待する所は中心部にあります。例えば鶴岡市役所を目標に来る時、この地図だと市役所に来る部分は太い線になっていません。遠くから来た場合、インターチェンジから市役所に入り、その延長には羽黒山がありますので、太い線の地図に直したほうがいいのではないかと思います。また、これは国や県の道路地図を基にしているからだと思いますが、今はカーナビでどこが一番近いか教えてくれますが、例えば、朝日から羽黒山に行く場合の道路を見ると、スーパー農道を走って市街地や山が見え、場所によっては月山も見える展望のいい道路が茶色い細い道路になっている。南バイパスは湯田川の方とぶつかる所までは青いけれども、その先も非常にいい道路が国道7号線まで続くのに青くなっていません。また、由良から加茂は細いクネクネした道路ですが、観光的には水族館もあり日本海の自然が良く見えることから、もう少し検討して行きやすい地図に作り直すというのはどうでしょうか。市役所に来るのがきちん

と分かるためには、担当が一度道路標示を見ながら、またカーナビを使いながら検討すれば、この地図がまた別のものになると思います。パンフレット鶴岡の中の地図も中心部は分かりますが、外からの関係が一箇所だけの解説なので、この部分を大きくしてインターチェンジやその他から来る時に、繋がりが全部分かるような地図に作り変えるべきではないか。それから庄内空港から鶴岡市に来る場合、空港からレンタカーを借りてくる人が結構いますので、この地図では茶色い細い道路になっていますが、7号線に出て市に入って来られるように、太い表示にするといった観点をもう少し検討したほうがいいのではないのでしょうか。この地図を例に挙げましたが、他の観光資料も検討すれば別のものになるのではないかということ強く感じました。2つ目に関しては提言内容の進め方から離れましたが、いずれにしても大変いい機会に恵まれたとっております。ありがとうございました。

○ **小野寺雄次観光物産課長** 観光マップにつきましてのご提言ありがとうございます。全市マップは初めての試みです。各庁舎担当職員や見所案内所ということで、道の駅などの各施設の皆様からのご協力いただきながら作りました。もっと入れ込むべき箇所はあるのですが、意見を交わしながら作らせていただきました。国土地理院の地図を使わせていただきましたが、表示の仕方につきましても、今後改訂版で、より分かりやすいものということを考えております。

○ **五十嵐松治委員** 地域審議会の今後の事業の進め方または対応について、大変よくまとまっていると読んでおりました。私は福祉関係しか分かりませんが、特に高齢者の問題でも、行政や町内会、民生委員、地区社協という横の関連が非常に重要であるとのことで書かれています、その中で高齢化が非常に進んでいることから、役員になっても1、2年で歳という事で退いてしまう状況をよく見かけの中で、福祉関係で活動をしていくリーダーを育てるにしてもなかなか参加してもらえない。若い世代の参加をどうするかが非常に大切だと思っております。若者の参加がなければ、結局毎回同じような高齢者が高齢者を見るというような福祉の場となっているのが現状です。市役所各課で行われるような講演会等についてもただ参加を募るのではなく、若者が参加してこれから福祉にどのような意識を持っていくかというような醸成の面についても、意識を向けて欲しいし、これが不足しているのではないかという気持ちで聞いておりました。若者たちの高齢者に対する福祉の意識というのはある方はありますが、全般的に見ると非常に希薄だと思えます。このことを検討せずに進めていっても、また高齢者が高齢者を見なければならぬという現状は改善されないと思えますので、講演会等でも若者の参加を呼びかけ、若者が高齢者に対してどのような意識を持っていかなければならないのかという事に対して自覚を求めるような講演会であったら最高にいいと思えます。このような機会を与えていただきましてありがとうございました。

○ **荘司正明委員** 経済産業分科会で2年間勉強させていただきありがとうございます。少子高齢化による人口減少に歯止めがかからない現状では、観光による交流人口を増やしていく施策が非常に大事だと思います。2年間の我々の提言内容が非常によくまとまっていますが、今後はこれらの提言にスピード感を持って対応し進めたいと願っておりますのでよろしく願いいたします。

○ **本間孝夫委員** 私が参加した大きな理由の一つとして、買物難民は鶴岡ではそんなに深刻ではありませんが、全国的に見ると非常に大きな問題になっています。鶴岡の買物難民の状況をどう対応するべきかということはずっと提起してきました。5月17日締切りで24年度の山形県地域商業新サービス創出支援事業の募集をしていました。どういう業者が参加し支援を行っていくかはまだ分かりませんが、鶴岡市で買物に困っている方が20何%いらっしゃるという意見もあるようです。その対応として、鶴岡では森の産直カーや海の産直カーですが、最初の事業の考え方は消費者の支援というよりも、高齢化している生産者への対応を含めた対応策であったと聞いております。鶴岡型の新しい買物難民の対応の仕方が考えられますので、是非そういうものを具体的に進めていただきたいと思います。もう1つ、JAさんで進めています産直館と連携して、地域に決め細やかな買物する場所をどんどん作っていく方法も鶴岡市では考えられるのではないかと思います。鶴岡型の買物難民対応を具体的に達していただけたらと思います。また、去年の東日本大震災を経験する時期に地域審議会ができたということで、改めて鶴岡は素晴らしい。災害は少ないし、海、山、川があり農産物も豊富である。日本で一番住みたいまちというランクがあります。平成10年度の資料ですが、全国では山形市が80何位かに入っているようでした。それは交通や地域のコミュニティとか6つくらいの項目から、バランスがよいと順位が上がっていくのですが、多分、今鶴岡は相当ランクが上に来ていると思います。鶴岡のよさを情報発信しながら、若い人たちが定着できるようなまちづくりに、我々の地域審議会が力になったのではと思っております。2年間勉強させていただいてありがとうございます。感謝いたします。

○ **齋藤春子副会長** 皆さんが大変褒めてくださいましたが、具体的に実践できるような項目として今後の進め方、対応の仕方を書いていただき、私たちが勝手に話をしたことが、よくここまでまとめてくださったと感謝申し上げたいと思えました。ただ、私たちに残されている問題は、地域のコミュニティ、または防災関係で、行政に言われたからやるのではなく、地域の中で話し合い、どう実践していくかが問題だと思います。確かに高齢化になっているし、若い人が出てこないというような悩みもありますが、市でまちづくり塾をつくっているように地域でも出来ないか。前に三瀬には十人会というものがありました。地域づくりの研修会を若い人を中心に動いています。子どもも老人も巻き込み150人くらい集まりやっています。若い人の発想は幅広いし、そういうものを育てていくコミュニティづくりを皆でやらなければならないと思えました。それから、防災訓練や災害に備えるといいですが、海岸地は阪神以降、毎年7月になると津波の訓練があり去年もしましたが、津波の警報で逃げるという訓練が、いざという時に役立つと思えました。やはりリーダーは育てられてリーダーになるのではなく、机に潜れと怒鳴る人が出て初めてリーダーの資格があるのではないかと思います。そのくらいの活力ある地域であったり、育て方をしていかなければと思います。このような整った案をいただきましたので、これから実践ということになりますが、皆さんで具体的に地域の中で何が問題なのかなということを充分考えながら、地域、各団体が自分のこととして考えていかなければならないと思えました。

4 その他 なし

5 閉会

○ 秋野友樹企画部長 本日は大変慎重なご審議ありがとうございました。皆様の任期が、6月9日までとなっておりますので、任期内での最終の審議会となりました。委員在任中は、ご多用にもかかわらずご出席いただき、地域の課題解決や地域振興施策に向けた具体的な取組みについて、ご意見、ご提言を頂戴いただき誠にありがとうございました。本日の提言内容につきまして、今後の進め方等をご報告させていただきましたが、他の事業との調整、財政面など一朝一夕には行かない面もございますが、委員の皆さまからご指摘がございますように、今後どのように具現化していくかが我々の役目だと思っております。今後とも実現に向かって努力してまいりたいと思いますので、引き続き地域振興施策の推進につきまして、ご支援とご指導を賜りますようお願い申し上げます。これをもちまして、本日の地域審議会を終了させていただきます。大変ありがとうございました。

(午後3時45分終了)